



関寛齋展

〜医師として開拓者として生きた徳島の偉人〜

7月6日(火)～10月7日(木)

※8月29日展示替

徳島県立文学書道館

3階文学常設展示室 (要・観覧券)

幕末・明治という動乱の時期に最先端の医療を学び、戊辰戦争では敵味方関係なく多くの命を救った“関寛齋”。自ら士分を返還し、身分・貧富の差にとらわれず仁術を施し、72歳から北海道の開拓へ旅立つなど、その生き方は司馬遼太郎や城山三郎などの作家に影響を与え、『胡蝶の夢』や『人生余熱あり』など優れた文学作品に描かれました。この徳島ゆかりの偉人の人となりを紹介します。